



編纂するにあたって

この小著を編纂するにいたったのは、昭和二十四年四月篠木小学校校長として着任早々、第三学年担任の職員が郷土の授業をするに当り、村史がなく、村勢要覧のみが唯一の頼みであったので、当時の職員の要望にこたえ、ここに思いをいたし、微力で、しかも歴史にうといながらも編纂することを決意し、当時の全職員に滝沢村誌を編纂すると約束をした。

時代時代の村民は、南部藩や岩手県、いな日本の時代の流れをどう受け止めて来たか。記述するに当っては、孤立させた滝沢村を特にさけ、重点を農民生活の変遷においたのである。しかしながら、村内の史料蒐集・調査・研究が不充分で意を尽すことが出来ず、五カ年間中断をしたが、通算して二十余年の年数がたった。よわい満六十七歳になった今再読してみると、今まで集めた資料を出来るだけそのまま忠実に伝えようと努力したのであるが、多数の方々の合議を経ていないので、取捨選択が出来ず、視野の狭いことはまぬがれない。個人の目の小窓からキャッチしたのであるから、時代時代の社会全体の流れそのものを客観的に把握しえなかったことは、どうしても否定することが出来ない。しかも、ある項は擾擾、ある項は簡略、その上積木細工の感を抱くが、今まで編纂した項目の過不足修正、文章の統一、全体の均衡、索引、年表の作成等々考慮すると、向後何年かかる

か予測がつかないので、未完成と知りつゝも、歴史の基礎に疎いこの個人の小著が礎石となって、他日立派な滝沢村史の完成される日を期待している者である。従って、雑記の意味で、特に滝沢村史の史をさげ誌としたのである。

なお、漢文調や、古風の文体等は、原文を損なわないよう出来るだけ現代文に訳し、更に解説を加え、読みにくい文字には振り仮名をしたのである。

本年度、拙著滝沢村誌出版費として、多額の予算を計上していただき、いよいよ出版する運びとなり、長年の約束を果たすことが出来たことは、私にとってこの上ない喜びで、ここに、改めて、村御当局に対して深謝をするのである。

本書の完成に当り、写真・校正・出版等一切を村に依頼し、原稿のみを提供したのである。今まで、陰に陽に寄稿・資料を御提供下された方々の御芳名を省略させていたゞき、各位に深甚なる謝意を表して筆をおく。

昭和四十九年四月

福田武雄